

全苗連だより

Vol. 50 (9月号)

平成30年9月20日

発行：全国山林種苗協同組合連合会

Tel.03-3262-3071 Fax.03-3262-3074

平成31年度林野庁予算概算要求が提出される(速報)

優良な種苗を低コストかつ安定的に供給する体制の構築を目的としている「優良種苗低コスト生産推進事業」は138.7%の伸び

林野庁は8月31日に、平成31年度予算概算要求を財務省へ提出しました。これから年末までの4ヵ月間にわたり予算折衝がスタートします。

平成31年度林野関係予算は、総額3,452億円(H30予算2,997億円、以下()はH30予算)で対前年度比115.2%となっています。予算の重点事項のテーマは「林業の成長産業化と生産流通構造改革の推進」となっており、9の重点事項が示されています。

一番目に掲げられているのが、昨年度に引き続き「①林業成長産業化総合対策」で、総額は186億円(155億円)。森林経営管理法に基づく新たな森林管理システムを推進することとしています。そのメニューの中に「持続的林業確立対策」があり、**コンテナ苗生産基盤施設等整備**として、今年度に引き続き施設整備に対する支援の枠組みが位置づけられました。

また、重点事項の⑦に「花粉発生源対策推進事業」(総額1億円(1億円))が今年度に引き続き計上されています。

林野公共事業費は2,296億円(1,900億円)で対前年度比120.8%となっています。このうち**主伐後の再造林等を推進する森林整備事業費**は1,467(1,203)億円で対前年度比122.0%となっています。林業の成長産業化と森林資源の適切な管理を実現するために重点事項の②に位置づけられており、予算の獲得を大いに期待したいと思います。

次に、非公共事業に目を向けます。

「優良種苗低コスト生産推進事業(拡充)」は197(142)百万円となっており、138.7%の伸び率です。種穂の確保、苗木の生産技術及び生産効率の向上、地域的な過不足が生じやすい需給のマッチングなど、苗木を供給するまでの各段階における課題を解決し、優良な苗木を低コストかつ安定的に供給するための体制を構築することを目的としています。具体的には、優良種穂の確保と優良苗木の供給拡大の2項目があり、

【優良種穂の確保】

- ① 指定採種源の拡大
 - ・指定採種源を都道府県が新たに指定するために行う遺伝子調査を支援。
- ② エリートツリー等の原種増産技術の開発
 - ・エリートツリー、早生樹の原種増産技術の開発等を支援。
- ③ 採種園等の造成・改良等
 - ・都道府県が行う採種園等の造成、改良や機能向上を支援
 - ・認定特定増殖事業者等による種穂の広域供給や、早生樹の採種園の造成等モデル的な取組を支援。
- ④ 採種園の再活用等
 - ・国有林内の利用されていない採種園等の園内整備課長及び母樹の更新並びに人工造林地を穂木の採起源として活用するための条件整備を実施。

【優良苗木の供給拡大】

- ① 新たな苗木生産技術の実証
 - ・国有林において、生産期間の大幅な短縮が期待できる当年生苗の導入に向けた植栽の実証を実施。
- ② 苗木生産技術の向上等
 - ・日々進展の著しいコンテナ苗の生産・利用に関する技術研修や、地域的な変動が生じやすい種苗の需給情報を共有する取組に対して支援。

を内容としています。

優良種苗の生産にとって、素性のはっきりとしている種穂を使うことは絶対条件です。今、植栽で求められている「特定母樹由来の品種」あるいは「少花粉・無花粉」の品種、抵抗性マツの品種の種穂が安定的に供給されなければなりません。【優良種穂の確保】の対策は大いに期待したいと思います。

また、【優良苗木の供給拡大】の「①新たな苗木生産技術の実証」は、当年生苗の活用可能性を確かめようとするもので今年度に引き続き実施するものです。全苗連の先駆的生産者の中には、既に当年生苗の有効性を確認されている方もいます。国有林のフィールドにおいて実証試験がなされるとのことであり、データが集まり次第、植栽における苗木の仕様・基準に大きな動きの出ることが期待されます。

②の「苗木生産技術の向上等」は、コンテナ苗生産技術の日進月歩を踏まえて、最新最良の技術を普及させようとするものです。苗木総生産量に占めるコンテナ苗のシェアが2割になる中であって、全苗連としても大いに関心をもっているところです。

北海道地震の被害状況について

平成30年9月6日3時7分に、日本の北海道胆振地方中東部を震源として発生した地震は、地震の規模 M_j 6.7、震源の深さは37 km（いずれも暫定値）。最大震度は、震度階級で最も高い震度7で、北海道

では初めて観測されたところです。厚真町を中心に広い範囲で土砂崩れが発生するなど大きな被害をもたらしたところです。北海道苗組所属員の被害状況は次のとおりです。台風21号による被害と合わせて情報いたします。

(以下、北海道苗組情報抜粋)

台風及び地震による被害状況を報告いたしますのでよろしくお願いいたします。

今回の台風ではカラマツ苗木(本年秋以降山出し予定)が倒伏した苗畑が6箇所、トタン板の剥がれる被害が1箇所発生しています。一方、地震による苗畑の直接的被害は発生していませんが、北海道全域で停電したため配水や灌水用の設備を動かすことが出来ず発電機等で対応した苗畑が4箇所となっています。なお、震源地近くの生産者の自宅で家具の倒壊、窓ガラスの破損などの被害が1箇所発生していますが人的な被害は発生していません。

全国の関係者の皆様にご心配をおかけしておりますが、生産者の被害が少なくほっとしているところです。(以上9月10日現在の被害状況報告)

追伸(9月13日情報)

先週の台風による苗畑への影響は先日報告したほかに道南(北斗市)の4件の生産者でカラマツとグイマツ雑種F1が風で倒伏しましたが、すでに倒木起こしを実施していますので、枯損等の被害にはなっていません。カラマツ系は浅根性の樹種であることから風に弱いところがあります。

地震による被害を再度確認したところ直接的な苗畑被害はありませんが、安平町早来の生産者の住宅では家具は倒れなかったものの、食器等が割れる被害が出ましたが自力で復旧し現在は水道と電気が来ていることもあり、自宅に戻っています。ただ、食料の調達が潤沢ではないようです。

全苗連・苗組の行事予定

～H31.3 ①コンテナ苗生産未経験者を対象とした研修会の実施 ②コンテナ苗生産に新規参入後、間もない事業者を対象とした研修会の実施 ③コンテナ苗生産経験者を対象とした巡回指導の実施 ④造林者等を対象としたコンテナ苗の植栽に関する研修会の実施 ⑤その他研修会の実施等 ⑥種苗の需給情報等を共有する取組 実施者;全苗連、都道府県苗組

9月6日 全苗連生産者の集い(岡山コンベンションセンター)

～7日

9月13日 林業退職金共済制度加入促進強化月間打合せ会議((独)勤労者退職金共済機構)

9月14日 林業団体懇談会(日本林業協会)(永田町ビル)

- 9月18日 大分県樹苗生産農業協同組合通常総会(大分センチュリーホテル)
- 9月19日 森林整備・治山事業促進議員連盟緊急決起大会(自民党本部)
- 9月20日 林業及び木材産業における「働き方改革」打合せ会議(林野庁林業労働対策室)
- 9月26日 技能検定制度打合せ会議(林野庁林業労働対策室)
- 10月3日 元全苗連会長武部勤氏旭日大綬章受章祝賀会(明治記念館)
- 10月11日 全苗連・福島県農林種苗農業協同組合共催次世代山林種苗生産圃場現地検討会(福島県南相馬
～12日 市)
- 10月30日 中国地区種苗需給調整協議会(山口市)
～31日
- 11月8日 全国林業経営推奨行事賞状伝達贈呈式(公益社団法人大日本山林会)(石垣記念ホール)
- 11月9日 東海・北陸地区林業用種苗及び緑化木需給調整協議会(静岡県庁西館)
- 11月13日 全苗連関東地区協議会(栃木県庁北別館)
- 11月15日 近畿地区林業用種苗需給調整協議会(滋賀県)
- 11月21日 九州地区林業用種苗需給調整協議会(大分県)
- 11月22日 九州苗連協議会総会(大分県)
- 11月29日 東北・北海道地区林業用種苗需給調整協議会(新潟市 朱鷺メッセ)
- 12月6日 全苗連・宮城県農林種苗農業協同組合共催コンテナ苗生産現地検討会(宮城県蔵王町)
～7日
- 12月13日 四国地区林業用種苗需給調整協議会(愛媛県松山市)
～14日